

漢字の共通部分を利用した 日本漢字音の指導法*

禹 燦 三**

(wchansam@hannam.ac.kr)

目 次

1. はじめに
 2. 形声文字の特性
 3. 共通部分を持っている日本の常用漢字
 4. 共通部分を利用した漢字音指導法
 5. おわりに
-
-

1. はじめに

ある外国語がその国の中・高校、いわゆる中等教育機関で正規の外国語科目として教えられるとき、その外国語はその国で外国語としての市民権を獲得したといえよう。このような観点から見ると、韓国での日本語も独逸語、フランス語、中国語、スペイン語などと共に、第2外国語としての市民権を獲得したことになる。

韓国で第2外国語として日本語教育が正式に教育機関で行われたのは、1961年韓国外国語大学校に日本語科が開設された時である。そして1973年には高校の教育課程の中で第2外国語として日本語が開設された。その後、多くの大学校と高校で日本語を第2外国語の科目として受け入れて今日まで日本語教育を行っているのが現実である。また2002年度から実施されている第7次教育課程では、中学校の教育課程の中に、裁量選択科目として日本語を設けている。これによって現在は多くの中学校でも日本語教育が行

* この論文は2009学年度韓南大学校の学術研究助成費の支援によって研究された。

** 韓南大学校 教授, 日本語教育

われている。

これによって韓国では多くの人々が日本語教育を受けており、日本語学習者のための研究も多方面で進められている。しかし日本語教育で大変重要な漢字(音)教育に関しては、学習者に任せるのが大部分であり、効果的、且つ体系的な指導、或いは研究が成されているとは言いにくい。このような状況の中で日本語学習者が日本語学習中に漢字問題にぶつかるのは、ある意味で考えると、当然のことかも知れない。周知のように、日本語教育で漢字教育は文字教育、音声教育、語彙教育と密接な関係がある重要な領域の一つである。

今井幹夫(1975)¹⁾は、漢字の習得が外国人に難しい理由は学習者が外国人だからではなく、漢字それ自体の特質と漢字が日本語で占めている位置とに大きな原因があると指摘し、外国人学習者に対する漢字指導は、今まで日本人児童に行われてきた指導とその理論を考慮するとともに、一方では外国人のための独自の方法について考えていかなければならないと記述している。

また岸陽子(1971)²⁾は漢字指導の方法について、1. 書けねばならぬ漢字と読めればならぬ漢字を分けて考える。2. 漢字の組成を理解させる、形声文字に関しては、共通の意味を内包する文字群を集めてグループを作り、相互に関連づけて習得させる。3. 書かせる場合には、厳密さを要求しないことなどを指摘している。

筆者は今井幹夫(1975)が主張した「外国人のための独自の方法について考えていかなければならない」という記述に賛成しながら、筆者なりに、今まで独自の漢字指導法として韓国漢字音と日本常用漢字音との対照研究を色々な観点から試みてきた。韓国漢字音と日本漢字音が一致する漢字を利用した指導法、韓国漢字音の頭子音・母音・末子音を利用した指導法などがそれである。その他にも両国言語の音韻変化が漢字音にどのような影響を与えているかなどについても詳しく論じてきた。

また岸陽子(1971)が提示した漢字指導の方法についても概ね賛成であるが、筆者は岸陽子の漢字指導の方法の中で、2. の部分で指摘した共通の意味ではなく、共通部分を内包している漢字群を集めて、それに基づいて韓国人日本語学習者の漢字音指導法について考えてみたいのが本研究の目的である。

2. 形声文字の特性

後漢の許慎は『説文解字』で漢字を六書によって分類している。この六書の内、形声

1) 「語彙指導としての漢字教育」『日本語教育』28号、p.67

2) 「漢字の教え方」『講座日本語教育』第3分冊、pp.106-113

文字が占めている割合が一番高い。国立国語研究所(1988)³⁾によると、『説文解字』では五分の四、『康熙字典』では十分の九、宋代の鄭樵の調べでは、24,235字の中21,180字、約87%が形成文字だと述べている。

形声文字は既成文字を結合して作られた文字として、音を表す音符と意味を表す義符の二要素の組み合わせによって構成されている。したがって形声文字は、意味を表す構成要素の義符を通じて意味の類推が可能であり、音符の構成要素を通じて音の類推が可能になるのである。つまり同じ音符を持っている漢字は大部分その音が同じか、似ている。例えば「青」を音符として持っている漢字「晴・請・精・清」などの音は日本の漢音では全て「セイ」、呉音では「ショウ」として同じである。そして本来「青」の漢字は「清明なこと」「澄みきったこと」という基本意味を持っているので、この「青」という共通部分に「日」が付いている「晴」は「清明な天気」という意味を表し、「水」が付いている「清」は「清い水」を表し、「米」が付いている「精」は「けがれの無い米」を表すことになる。このように「清・晴・精」の漢字に共通的にある音符は「青」であるので、これらの漢字音は全て「青」と同じになるのである。このような漢字は基本字「青」の音だけが分かれば「清・晴・精」の音も類推可能であり、日本語の漢字音指導に大変有効であると考えられる。

もう一つは漢字はハングル文字とアルファベット文字に比べて字形が複雑であり、字数も多くあるので、学習者が難しく考えるのは共通的な事項であり、忌避する原因でもある。しかし実際に複雑に見える漢字をよく観察してみると、多くの漢字に造字上の原則を見つけることができる。ハングルやアルファベット文字は形態と音との二要素だけで、意味は持っていない、いわゆる音素文字である。しかし漢字は文字ごとに形態と音と意味の三要素を持っている文字である。これらの三要素は各々別々ではなく、互いに関連性を持っている。つまり漢字は形態から音と意味が類推できる漢字が多いということである。例えば「門・問・聞」はいずれも共通部分「門」を持っているので、音も同じか、似ている。

これらの漢字の韓国漢字音は全て「문(mun)」として同音である。日本漢字音は、呉音と漢音という層別伝承を持っている。これが韓国漢字音と大きく違う点であり、日本漢字音の大きな特徴でもある。「門・問・聞」の漢字は日本漢字音の呉音では全て「モン(mon)」として同音になり、漢音では「門」は「ボン(bon)」、「問・聞」は「ブン(bun)」になるのである。またこの漢字に限っていえば意味の類推も可能である。例えば「問」は共通部分「門」の漢字の中に「口」が入っているので、「口で問う」という基本意味を表す。したがって漢語熟語の「質問」や「問答」などのように、口と関連がある漢語熟語ではこの「問」の漢字が使われる。そして「聞」は共通部分「門」の漢字の中に「耳」が入っているので、「耳で聞く」という基本意味を表す。したがって漢語熟語

3) 『文字・表記の教育』大蔵省印刷局、p.107

の「見聞」や「百聞不如一見」などのように、耳と関連がある漢語熟語では、この「聞」の漢字が使われる。このように漢字の構造上の特徴を漢字指導に適用すると、漢字音だけではなく、ある程度意味の見当もつけられるので、大変有効な指導方法の一つであると考えられる。本研究では、このような基本的な考え方に基づいて日本漢字音に難しさを感じている日本語学習者に、より効果的、合理的な漢字指導方法の一つとして共通部分を持っている漢字を利用した漢字指導法について考えてみたい。

このような目的を達成するために、本研究では、一次的に日本の常用漢字を対象にして共通部分を持っている漢字を全て調査した。その後、調査した漢字を再びア行からラ行まで、行別に細分化して分かりやすく表で整理して提示した。そしてこれらの表によって指導法、あるいは注意点などについて記述した。ア行からラ行までの表は、次のような原則によって作成したということを付け加えておきたい。

- (1) 表の常用漢字の欄に新字体の漢字は括弧の中に旧字体を併記した。
なぜならば新字体は便宜上日本で作った、いわゆる略字であるので表面的に共通部分が現れない場合があるからである。
- (2) 表の共通部分の常用漢字の選別は、まず共通部分を持つこと、もう一つは音が同じか似ていることを基準に調べた。
- (3) 表の共通部分には、共通部分の常用漢字が基本漢字と同じである場合は記載し、違う場合は記載せずに空欄にしておいた。
- (4) 表の注意すべき漢字の欄には共通部分を内包しながら、誤読可能性が高い漢字と一字二音の常用漢字を主として記載した。

3. 共通部分を持っている日本の常用漢字

3.1 ア行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているア行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表1>ア行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
安案	安アン	安	
尉慰	尉イ	尉	
偉違緯圍(圍)	偉イ		
衣依	衣イ	衣	依(イ,エ) ⁴⁾
因姻	因イン	因	

員韻	員イン	員	
永泳詠	永エイ	永	
英映	英エイ		
栄(榮)営(營)	栄エイ		
駅(驛)訳(譯)	駅エキ		
役疫	役エキ		役(ヤク,エキ)疫(エキ,ヤク)
悦閱	閱エツ		
遠猿園	遠エン		
沿鉛	沿エン		
黄横	黄オウ	黄	黄(コウ,オウ)
王往皇	王オウ	王	皇(コウ,オウ)
欧(歐)殴(殴)	欧オウ		
億億	億オク		

3.2 カ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているカ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表2>カ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
可何河荷歌	可カ	可	
化花貨靴	化カ	化	化(カ,ケ)
果菓課	果カ	果	
加架賀	加カ	加	賀(ガ)
仮(假)暇	仮カ		仮(カ,ケ)
家稼嫁	家カ	家	家(カ,ケ)
過渦禍	過カ		
我餓	我ガ	我	
雅芽	雅ガ		
皆階	皆カイ	皆	
会(會)絵(繪)	会カイ	会	会(カイ,エ)絵(カイ,エ)
戒械	戒カイ	戒	
海悔	海カイ		
壊(壞)懷(懷)	壊カイ		
該劾	該ガイ		
概慨	概ガイ		
各客格閣	各カク	各	客(キヤク,カク)格(カク,コウ)
穫獲	穫カク		
渴(渴)喝(喝)褐(褐)	渴カツ		

- 4) 「依(イ,エ)」、「役(ヤク,エキ)」、「疫(エキ,ヤク)」、「黄(コウ,オウ)」、「皇(コウ,オウ)」のように、一字の漢字に二音あるのは、日本漢字音の特徴である層別伝承のためである。つまり、日本漢字音の主たる層である呉音と漢音のためである。以下はほぼ同様である。

活括	活カツ		
割轄	割カツ		
干刊汗肝幹	干カン	干	
勘堪	勘カン		
感憾	感カン	感	
貫慣	貫カン	貫	
官館管棺	官カン	官	
間簡	間カン	間	間(カン,ケン)
換喚	換カン		
覲(觀)勸(勸)歛(歡)缶(罐) 權(權)	覲カン		權(權)(ケン)
監鑑艦	監カン	監	
環還	環カン		
顏頑願	顏ガン		
己記紀起忌	己キ	己	己(コ、キ)
飢机	飢キ		
奇寄騎	奇キ	奇	
基期棋旗欺	基キ		期(キ,ゴ)欺(ギ)
幾機	幾キ	幾	
揮輝	揮キ		
気汽	気キ		
岐技	岐キ		技(ギ)
義議儀犧	義ギ	義	
疑擬	疑ギ	疑	
吉詰	吉キツ	吉	吉(キチ,キツ)
却脚	却キヤク	却	脚(キヤク,キヤ)
及吸級	及キユウ	及	
九究	九キユウ	九	九(キユウ,ク)
弓窮	弓キユウ	弓	
求球救	求キユウ	求	
巨距拒	巨キョ	巨	
魚漁	魚ギョ	魚	漁(ギョ,リョウ)
凶胸	凶キョウ	凶	
共供恭	共キョウ	共	供(キョウ,ク)
協脅	協キョウ		
峽(峽)挟(挾)狭(狹)	峽キョウ		
橋矯	橋キョウ		
鄉響	鄉キョウ	鄉	
鏡境	鏡キョウ		
兄況競	兄キョウ	兄	兄(ケイ,キョウ)競(キョウ,ケイ)
斤近	斤キン	斤	
勤(勤)謹(謹)	勤キン		勤(キン,ゴン)
禁襟	禁キン	禁	

今琴吟	今キン	今	今(コン,キン)吟(ギン)
区(區)駟(驅)	区ク	区	
遇偶隅愚	遇グウ		愚(グ)
屈掘	屈クツ	屈	
勳(勳)薰(薰)	勳クン		
郡群君	郡グン	君	君(クン)
經(經)徑(徑)莖(莖)輕(輕)	經ケイ		經(ケイ,キョウ)
系係	系ケイ	系	
形型刑	形ケイ		形(ケイ,ギョウ)
敬警驚	敬ケイ	敬	驚(キョウ)
溪(溪)鷄(鷄)	溪ケイ		
決欠(欠)	決ケツ		
券(券)圈(圈)卷(卷)	卷ケン		卷(卷)(カン)
犬献(獻)	犬ケン	犬	
建健	建ケン	建	
驗(驗)儉(儉)劍(劍)險(險)	驗ケン		
兼謙謙	兼ケン	兼	
県(縣)懸	県ケン		懸(ケン,ケ)
堅賢	堅ケン		
玄弦	玄ゲン	玄	
原源	原ゲン	原	
古故固枯個湖箇	古コ	古	箇(カ)
雇顧	雇コ	雇	
孤弧	孤コ		
呉誤娛	呉ゴ	呉	
五語悟	五ゴ	五	
工項紅攻功巧江貢控	工コウ	工	工(コウ,ク)紅(コウ,ク)功 (コウ,ク)貢(コウ,ク)空(クウ)
構購溝講	構コウ		
交校效郊絞	交コウ	交	
候喉候	候コウ		
荒慌	荒コウ	荒	
広(廣)鉞(鑛)	広コウ	広	
孝醇拷	孝コウ	孝	拷(ゴウ)
高稿	高コウ	高	
行衡	行コウ	行	
鋼綱剛	鋼コウ		剛(ゴウ)
更硬	更コウ	更	
抗航坑	抗コウ		
告酷	告コク	告	
昆混	昆コン	昆	
根恨墾懇限	根コン		限(ゲン)

3.3 サ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているサ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

〈表3〉サ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
左佐	左サ	左	
裁裁載	裁サイ		
濟(濟)齋(齋)劑(劑)齊(齊)	濟サイ	齊	劑(ザイ)齊(セイ)
祭際	祭サイ	祭	
菜彩採	菜サイ		
材財才	材ザイ		財(ザイ、サイ)才(サイ)
作昨酢	作サク		作(サク、サ)
察擦	察サツ	察	
參(參)慘(慘)	參サン	參	
棧(棧)殘(殘)	棧サン		殘(ザン)
旨脂指	旨シ	旨	
司飼詞嗣伺	司シ	司	
士仕志誌	士シ	士	仕(シ、ジ)
史使	史シ	史	
止祉	止シ	止	
市姉	市シ	市	
氏紙	氏シ	氏	
糸紫	糸シ	糸	
次姿資諮	姿シ	次	次(ジ、シ)
支枝肢	支シ	支	
慈滋磁	慈ジ		
寺侍持時	寺ジ	寺	
舎捨	舎シャ	舎	
者煮	者シャ	者	
射謝	射シャ	射	
尺積	尺シャク	尺	
勺酌	勺シャク	勺	
朱殊珠	朱シュ	朱	
取趣	取シュ	取	
守狩	守シュ	守	守(シュ、ス)
需儒	需ジュ	需	
受授	受ジュ	受	
秋愁	秋シュウ	秋	
州酬	州シュウ	州	
周週	周シュウ	周	
十汁	十ジュウ	十	十(ジュウ、ジツ)
充銃	充ジュウ	充	
従(従)縦(縦)	従ジュウ	従	

叔淑	叔シュク	叔	
宿縮	宿シュク	宿	
塾熟	塾ジュク		
述術	述ジュツ		
旬殉	旬ジュン	旬	
准準	准ジュン		
盾循	盾ジュン	盾	
暑署諸緒	暑ショ		緒(ショ,チヨ)
女如	女ジョ	女	女(ジョ,ニヨ,ニヨウ)如(ジョ,ニヨ)
徐除叙	徐ジョ		除(ジョ,ジ)
小少抄	小ショウ	小	
升昇	升ショウ	升	
将(將)奨(奨)	将ショウ	将	
召招沼昭紹詔照	召ショウ	召	
焦礁	焦ショウ	焦	
松訟	松ショウ		
詳祥	詳ショウ		
唱晶	唱ショウ		
尚常掌賞償	尚ショウ	尚	
症証	症ショウ		
章障彰	章ショウ	章	
肖消硝宵	肖ショウ	肖	
乘(乘)剩(剩)	乗ジョウ	乗	
讓(讓)嬢(嬢)醸(醸)壤(壤)	讓ジョウ		
定錠	定ジョウ	定	定(テイ,ジョウ)
食飾	食ショク	食	
植殖	植ショク		
触(觸)嘱(嘱)属(屬)	触ショク		属(屬)(ゾク)
職織識	職ショク		識(シキ)
振娠唇震	振シン		
申伸紳神	申シン	申	神(シン,ジン)
侵浸寝	侵シン		
新薪親	新シン		
真(眞)慎(慎)鎮(鎮)	真シン	真	鎮(チン)
陣陳	陣ジン		陳(チン)
吹炊	吹スイ		
粹(粹)酔(酔)	粹スイ		
垂睡錘	垂スイ	垂	
随(隨)髓(髓)	随ズイ		
寸村	寸スン		村(ソン)
正征政整	正セイ	正	正(セイ,ショウ)政(セイ,ショウ)

生 性 牲 星	生 セイ	生	生(セイ, ショウ) 性(セイ, ショウ) 牲(セイ, ショウ) 星(セイ, ショウ)
成 盛 誠	成 セイ	成	成(セイ, ジョウ) 盛(セイ, ジョウ) 城(ジョウ)
制 製	制 セイ	制	
青 清 晴 精 静 請 情	青 セイ	青	青(セイ, ショウ) 清(セイ, ショウ) 精(セイ, ショウ) 静(セイ, ジョウ) 請(セイ, シン) 情(ジョウ、セイ)
税 説	税 ゼイ		説(セツ, ゼイ)
斥 析	斥 セキ		
赤 跡	赤 セキ		
責 績 績	責 セキ	責	
昔 惜 籍 借	昔 セキ	昔	借(ジャク)
切 窃	切 セツ	切	
先 洗 銑	先 セン	先	
泉 線	泉 セン	泉	
浅(淺) 踐(踐) 錢(錢)	浅 セン		
善 繕	善 セン	善	
然 燃	然 セン	然	然(セン, ネン) 燃(ネン)
全 栓	全 セン	全	栓(セン)
祖 阻 租 粗 組	祖 ソ		
早 草	早 ソウ	早	
壯(壯) 莊(莊) 装(装)	壯 ソウ	壯	
相 想 霜	相 ソウ	相	
倉 創	倉 ソウ	倉	
層 僧 增 憎 贈	層 ソウ		增 憎 贈(ゾウ)
曹 遭 槽	曹 ソウ	曹	
操 燥 藻	操 ソウ		
象 像	象 ズウ	象	象(ショウ、ゾウ)
藏 臟	藏 ズウ	藏	
足 促	足 ソク	足	
則 側 測	則 ソク	則	
束 速	束 ソク	束	

3.4 タ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているタ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表4>タ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
大 太	大 タイ	大	大(ダイ, タイ)
台 怠 胎	台 タイ	台	台(ダイ, タイ)

帶滯	帶タイ	帶	
代貸袋	代タイ	代	代(ダイ,タイ)
第弟	第ダイ		弟(テイ,ダイ)
沢(擇)沢(澤)	沢タク		
宅託	宅タク	宅	
担胆	担タン		
談淡	談ダン		談(ダン)淡(タン)
知痴	知チ	知	
畜蓄	畜チュク	畜	
中仲沖忠	中チュウ	中	
注柱駐主住	注チュウ		主(シュ)住(ジュウ)
宙抽	宙チュウ		由(ユ,ユウ,ユイ)油(ユ)
丁庁町頂	丁チョウ	丁	
兆跳挑眺	兆チョウ	兆	
長張脹帳	長チョウ	長	
朝潮	朝チョウ	朝	
徵懲	徵チョウ	徵	
通痛	通ツウ		
低底抵邸	低テイ		
提堤	提テイ		
貞偵	貞テイ	貞	
呈程	呈テイ	呈	
廷庭艇	廷テイ	廷	
訂亭停	訂テイ		
帝締	帝テイ	帝	
適滴敵摘嫡	適テキ	適	嫡(チャク)
徹撤	徹テツ		
店点	店テン		占(セン)粘(ネン)
展殿	展テン	展	殿(デン,テン)
転(轉)伝(傳)	転テン		伝(デン)專(セン)
度渡	度ト	度	度(ド,ト)
土吐塗	土ト	土	土(ド,ト)
奴努怒	奴ド	奴	
登灯(燈)	登トウ	登	
唐糖	唐トウ	唐	
東凍棟	東トウ	東	
到倒	到トウ	到	
豆痘頭	豆トウ	豆	
答塔搭	答トウ		
同洞銅筒	同ドウ	同	筒(トウ)
動働	動ドウ	動	
道導	道ドウ	道	
屯鈍	屯トン	屯	鈍(ドン)

3.5 ナ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているナ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表5>ナ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
任妊	任ニン		
忍認	忍ニン		
脳(腦)惱(惱)	脳ノウ		
農濃	農ノウ		

3.6 ハ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているハ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表6>ハ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
波破婆	波ハ		婆(バ)
俳排輩	俳ハイ		
買売(賣)	買バイ	買	
倍培陪賠	倍バイ		
白伯拍泊迫舶百	白ハク	白	白(ハク,ヒャク)拍(ハク,ヒョウ) 百(ヒャク)
博薄縛	博ハク		博(ハク,バク)縛(バク)
暴爆	暴バク	暴	暴(ボウ,バク)
伐闕	伐バツ	伐	
凡帆	凡ハン	凡	凡(ボン,ハン)
半畔伴判	半ハン	半	伴(ハン,バン)判(ハン,バン)
反坂販版飯板返	反ハン	反	板(ハン,バン)返(ヘン)
般搬盤	般ハン	般	盤(バン)
煩煩	煩ハン		煩(ハン,ボン)
番藩翻	番バン	番	藩(ハン)翻(ホン)
比批	比ヒ	比	
皮疲彼披被	皮ヒ	皮	
非悲扉	非ヒ	非	
卑碑	卑ヒ	卑	
秘泌必	秘ヒ		泌(ヒツ,ヒ)必(ヒツ)
表俵	表ヒョウ	表	
票標漂	票ヒョウ	票	
平評	平ヒョウ	平	平(ヘイ,ヒョウ)
秒妙	秒ビョウ		妙(ミョウ)
苗描猫	苗ビョウ	苗	
賓浜(濱)	賓ヒン	賓	

不否	不フ	不	否(ヒ)
夫扶	夫フ	夫	
付府附符腐	付フ	付	
布怖	布フ	布	
普譜	普フ	普	
副福幅富	副フク		富(フ,フウ)
復腹復覆	復フク		
払(拂)仏(佛)沸	払フツ		仏(ブツ)
分雰紛紛盆	分フン	分	分(ブン,フン,ブ)盆(ボン)
墳噴憤	墳フン		
文紋	文ブン	文	文(ブン,モン)紋(モン)
丙柄病	丙ヘイ	丙	病(ビョウ)
併(併)塀(塀)	併ヘイ		
幣弊	幣ヘイ		
米迷	米ベイ	米	米(ベイ,マイ)迷(メイ)
壁癖	壁ヘキ	壁	
偏遍編	偏ヘン		
勉免	勉ベン		免(メン)
捕浦補舗	捕ホ		
募慕暮墓	募ボ		
方芳放倣訪	方ホウ		坊房防肪紡傍(ボウ)
包抱泡胞砲飽	包ホウ	包	
奉俸棒	奉ホウ		奉(ホウ,ブ)棒(ボウ)
峰縫	峰ホウ		
防坊房肪紡傍	防ボウ		坊(ボウ,ボツ)方芳放倣訪(ホウ)
亡忙望忘妄盲	亡ボウ		亡(ボウ,モウ)望(ボウ,モウ)妄(モウ,ボウ)盲(モウ)
冒帽	冒ボウ		
某謀	某ボウ		謀(ボウ,ム)
木朴	木ボク		木(ボク,モク)
僕撲	僕ボク		

3.7 マ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているマ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表7>マ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
麻磨魔摩	麻マ	麻	
毎梅	毎マイ	毎	梅(バイ)
幕膜漠	幕マク		幕(マク,バク)漠(バク)

末抹	末マツ	末	末(マツ,バツ)
慢慢	慢マン		
末味魅	未ミ	未	
民眠	民ミン	民	
務霧	務ム	務	
無舞	無ム		無(ム,ブ)舞(ブ)
名銘	名メイ	名	名(メイ,ミョウ)
明盟	明メイ		明(メイ,ミョウ)
毛耗	毛モウ		耗(モウ,コウ)
門問聞	門モン		聞(ブン)

3.8 ヤ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているヤ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表8>ヤ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
由油	由ユ	由	由(ユ,ユウ,ユイ)
愉(愉)諭(諭)癒(癒)輸(輸)	愉ユ	愈	
憂優	憂ユウ	憂	
予預	予ヨ	予	
羊洋養	羊ヨウ	羊	
容溶	容ヨウ	容	
要腰	要ヨウ	要	
謡揺	謡ヨウ		
陽揚	陽ヨウ		
欲浴	欲ヨク		谷(コク)裕(ユウ)俗(ゾク)
翌翼	翌ヨク		

3.9 ラ行の共通部分を持っている漢字

日本常用漢字の中で共通部分を持っているラ行の漢字を全て表で整理して提示すると、次のようである。

<表9>ラ行の共通部分を持っている漢字

共通部分の常用漢字	基本漢字及び音	共通部分	注意すべき漢字
落絡酪	落ラク		
覧濫	覧ラン		
利痢	利リ	利	
里理裏	里リ	里	
立粒	立リュウ	立	立(リツ,リュウ)
流硫	流リュウ		
慮虜	慮リョ		
量糧	量リョウ	量	糧(リョウ,ロウ)

寮僚療	寮リョウ		
倫輪	倫リン		
累塁	累ルイ		
令冷鈴零齡領	令レイ	令	鈴(レイ,リン)領(リョウ)
歴曆	歴レキ		
列烈裂	列レツ	列	
練錬	練レン		
路露	路ロ	路	
郎朗浪廊	郎ロウ		
録録	録ロク		録(リョク、ロク)

4. 共通部分を利用した漢字音指導法

既に記述したように、共通部分を持つ漢字とは、同じか類似しながら共通部分を内包している漢字群を言う。したがって「亜悪、握屋、意億、裕欲」などの漢字は共通部分を内包しているが、音が同じではなく、また類似していないので、本研究の共通部分を持つ常用漢字では除外した。これらの漢字まで含めると、共通部分の常用漢字ははるかに多くなるだろう。このような基準によって常用漢字表を対象に、共通部分を持つ漢字を抜き出してア行からラ行まで纏めたのが<表1>から<表9>までである。

常用漢字表の中には同じ音符を持ち、同じ音、あるいは似ている音で読まれる漢字が今までの表に上げたとおりであるが、共通部分を持つ常用漢字の総数は1,008字として非常に多い。このうち、基本漢字の数は374字である。これによると、理論的には基本漢字374字の漢字音を学習すると、1,008字の漢字音を読み取れるという計算になり、日本漢字音の指導に大変有効であると考えられる。勿論「敵(テキ)、嫡(チャク)」「毎(マイ)、梅(バイ)」のように同じ音符を持ちながら同じ音ではなく、似ている音で読む漢字も掲げた表にはある。このような大きな理由は、日本漢字音の特徴である呉音・漢音の違いのためである。呉音・漢音の特徴については拙稿(2004)⁵⁾を参照し、ここでは共通部分を持ち、同じ音で読まれる漢字を日本漢字音の指導にどのように利用すればよいかという点についていくつか提案したい。そして注意すべき漢字を取り上げて説明も加えたい。

<表1>から<表9>に掲げた漢字のうち、まず最初に教えるべき漢字を「基本漢字」と名付けたが、この基本漢字を日本漢字音の指導に積極的に導入しながら、派生漢字音に広げると、効果的であろう。例えば「永・泳・詠」の漢字音を教える際、優先的に基本漢字「永」の音を教えてから「泳・詠」に拡大していく方法である。一方「泳」という漢字は基本漢字「永」に水と関係があるサンズイが入っていて意味領域が水と関連性がある

5) 「日本漢字音の諸層の特色と常用漢字音との比較研究」『韓南大学校論文集』第34集、pp.103-123

る。よって、「水泳」のような水と関連性がある漢語熟語で「エイ」に対する漢字を選ぶとき、大いに役立つと考えられる。日本語学習者は、自分が「エイ」音で読まれる漢字を多く知っていてもある漢語熟語を作るとき、どの漢字を選ぶか迷うことがしばしばある。このようにときに、上記のような指導法は役立つだろう。

<表 1>から<表 9>の共通部分が空欄になっているのは、常用漢字の共通部分がめったに使われない文字である。例えば「渴・喝・褐」の共通部分は「曷」としてこれの音は「カツ」であるが、「曷」という漢字は日常生活ではめったに使われない。この場合は「渴・喝・褐」の三つの中で、一つを基本漢字として設定して指導した後、他の漢字に広げていけばよからう。基本漢字の設定は日本語教育を行う際、一番最初に出る漢字にすればよいと思われる。例えば「渴望」或いは「渴く」の漢字が最初に出たとき、この漢字の音が「カツ」であると指導し、そしてこれと同じ音符を持っている、つまり共通部分を持つ漢字群「褐・喝・…」なども「カツ」であると指導すれば効果的ではないかと思う。そうすることによって、学習者は表外字の「葛」に接してもこの音を「カツ」と読み取れるだろうし、更にこれと結合する「葛藤」という漢字熟語を見て音が「カツ(カッ)何々」になるだろうと想像できると思われる。上に上げた共通部分の常用漢字を教えるときは、まず基本漢字を中心に指導しながら段々他の漢字に拡大していく方法が効果的であろう。

次に注意する点について述べたい。「偉・違・緯・囿」の漢字の共通部分は「韋」としてこれらの音は全て「イ」である。ところが「囿」の漢字を見ると、共通部分の「韋」が現れない。この理由は日本の常用漢字では新字体、いわゆる略字を使っているためである。この漢字の旧字体を見ると、「圍」として共通部分の「韋」が現れることが分かる。日本常用漢字の中には略字を採用して表面的には違う形である漢字がたくさんあるので、指導する際、あるいは同じ音符を持っている漢字群を集める際、注意すべきである。本研究では、参考までに旧字体を括弧に入れた。そして同じ共通部分を持っていても音が全く違う場合がある。例えば「谷・裕・欲・浴」の共通部分は「谷」であるが、全て「コク」の音ではなく、「谷」は「コク」、「裕」は「ユウ」、「欲・浴」は「ヨク」である。これらの漢字は、本表では「欲・浴」を共通部分を持つ漢字群に入れて、残りの漢字は表の注意すべき漢字の欄に入れて参考することにした。

共通部分を持っている漢字音を日本語教育に利用するためには先ず、共通部分を持つこと、次に音が同じか、似ていることが条件付けられる。「欲・浴」はこの条件を備えているので、日本語教育に利用できる。その際、上に提示した基本漢字「欲」を先ず教えて、次に「浴」に広げたらよからう。そして「谷」「裕」は音が全く違うので、注意するように指示しながら教えればよい。

これらの漢字は日本語教育の中でいつ教えたらいいか。これは定められているものではないが、筆者の経験から言うと、初級から上級まで利用できると考えられる。初級ではこれを全て教える必要はなく、日本語教育を行うとき、上に提示した基本漢字が出た場合に一つ

一つ教えたらよからう。もし教育課程の中に漢字と関連がある科目、つまり常用漢字などの科目があれば、共通部分を持っている漢字の基本漢字は中級段階で教えれば効果があると考えられる。

5. おわりに

漢字を専門にしなくても日本語教育に携わっている方、ある程度日本語ができる方ならば、日本の漢字の難しさに困惑を感じたこと、一方韓国漢字と似ていながら何か違うこと、漢字の中には共通部分を持っている漢字が多いことなどに気が付いただろうと思われる。筆者は今現在日本語教育に携わっている者として、上記のような悩みを少しでも解決してみようと様々な方面から漢字に関する研究を続けて、その研究成果を教育の現場でもよく活用しているところである。しかし周知のように、漢字の問題は多方面に亘っているので、まだまだ研究する部分が多くある。

本研究では、常用漢字の中に共通部分を持っている漢字が多いということに着目して共通部分を持つ漢字群を集めて、それを漢字音指導に利用するとより効果的ではないかという基本的な考え方に基づいて本研究を試みた。研究方法としては日本の常用漢字の中で共通部分を持っている漢字を全て調査した。その後、調査した漢字をア行から再び行別に細分化して分かりやすく表で整理して提示した。そしてこれらの表によって漢字音指導法についていくつかを提案した。ここで提案したいくつかの漢字音指導法が万全であるといえないが、漢字音指導には大きなヒントを提供するだろうと思われる。例えば表1 >のア行の共通部分を内包している漢字の総数は41字であり、基本漢字は18字である。これは理論的には18字の基本漢字が分かれば41字の音の類推が可能であるということになり、有効な指導法ではないかと思われる。しかし本研究は理論的な研究であり、実際に日本語教育の漢字音指導に役立つかどうかという実践的な研究は後の課題としたい。勿論実践的な研究が全くないことではない。筆者は、今現在勤務している大学で常用漢字という科目を担当している。この科目で部分的には利用したことがある。学生の反応も大変肯定的であることも確認したが、本研究で提示した全ての漢字群を持って実験したことではない。これからは全ての漢字群を持って実践的な研究に取り組みたい。

【参考文献】

- 今井幹夫(1975)「語彙指導としての漢字教育」『日本語教育』28号、日本語教育学会、p.67
- 岸陽子(1971)「漢字の教え方」『講座日本語教育』第3分冊、早稲田大学語学教育研究所、pp.106-113
- 国立国語研究所(1988)『文字・表記の教育』大蔵省印刷局、p.107
- 大蔵省印刷局(1991)『常用漢字表・現代仮名遣い(付 人名用漢字)』
- 藤堂明保(1991)『学研漢和大字典』学習研究社
- 禹燦三(1998)「日本語教育における漢字教育指導方法研究」『韓南大学校論文集』第28集、pp.87-108
- (1999)「韓日両語の音韻変化について (I)」『日本語学研究』第1輯 韓国日本語学会、pp.109-123
- (2006)「日本漢字音の諸層の特色と常用漢字音との比較研究」『韓南大学校論文集』第34集、pp.103-123
- (2006)「日本常用漢字の例外漢字音についての研究」『日語教育』第37集 韓国日本語教育学会、pp.19-44
- (2007)「韓国漢字音의 받침과 日本漢字音과의 比較」『日語教育』第42集 韓国日本語教育学会、pp.31-56

要 旨

本研究では、常用漢字表の中には同じ音符を持ち、同じ音、あるいは似ている音で読まれる漢字が多いということに着目し、共通部分を利用して漢字音指導をしたらより効果的ではないかという基本的な考え方に基づいて研究をした。研究方法としては、日本の常用漢字の中で共通部分を持っている漢字を全て調査した。その後、調査した漢字を行別に細分化し、表で整理して提示した。そしてこれらの表によって漢字音指導法についていくつかを提示した。今までの表に上げたとおりであるが、その共通部分を持つ漢字の総数は1,008字として非常に多い。このうち、基本漢字の数は374字である。したがって理論的には基本漢字374字の漢字音を覚えると、1,008字の漢字音が読み取れるということになる。これは日本漢字音の指導に大変有効なヒントを与えると考えられる。

例えば「青」を音符として持っている漢字「晴・請・精・清」などの音は漢音では全て「セイ」、呉音では全て「ショウ」となる。そして本来「青」の漢字は「清明なこと」「澄みきったこと」という基本意味を持っているので、この「青」という共通部分に「日」が付いている「晴」は「清明な天気」の意味を表し、「水」が付いている「清」は「清い水」を表し、「米」が付いている「精」は「けがれの無い米」を表すことになる。このように「清・晴・精」の漢字の共通的な音符は「青」であるので、これらの漢字音は全て「青」と同じ音になるのである。このような漢字は共通に入っている基本漢字「青」の音だけが分かれば「清・晴・精」の音も類推可能であるので、日本語教育の漢字音指導に大変有効であると考えられる。ここで提示した幾つかの漢字音指導法が万全であるとは言えないが、漢字音指導に大きなヒントは提供するだろうと思われる。

本研究は、理論的な研究で実際に日本語教育の漢字音指導に役立つかどうかという実践的な研究は後の課題としたい。実践的な研究が全くないことではない。筆者は、今現在勤務している大学で常用漢字の科目を担当している。この科目で部分的には利用したことがある。学生の反応も大変肯定的であることも確認したが、本研究で提示した全ての漢字群を持って実験したことではない。これからは全ての漢字群を持って実践的な研究に取り組みたい。

キーワード：常用漢字、基本漢字、共通部分漢字、
形声文字、呉音と漢音、漢字指導法

투 고 : 2009. 2. 28
1차 심사 : 2009. 3. 14
2차 심사 : 2009. 3. 28